

青森県考古学会 公開講座

よみがえる

亀ヶ岡文化の漆工技術

縄文時代晩期の亀ヶ岡文化の漆製品は、他の時期と比べて優れたものが多く、籃胎漆器や飾り弓、飾り太刀、櫛など美しく高水準な工芸技術が発達していました。

本講座では、こうした亀ヶ岡文化の漆工技術について、最新の発掘調査成果やX線CTを使用した透視観察、赤色顔料の製造実験等によって明らかになったことを紹介します。

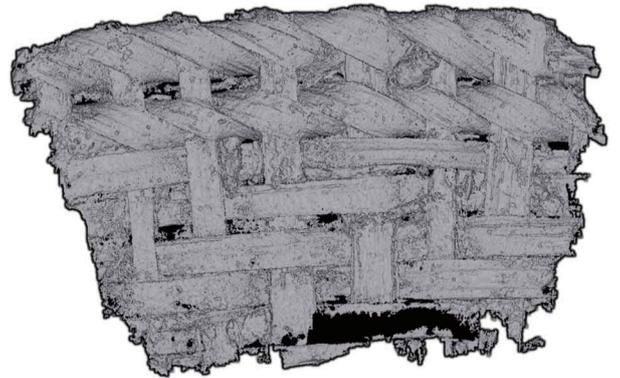
平成
29年 **10.14** 土
13:30~16:00

〔会場〕

縄文の学び舎・小牧野館
(2階 体験学習室)



ベンガラの製造実験の様子



籃胎漆器の外面(上)と内部構造(下)
青森市平野遺跡出土

発表①

西目屋村・川原平(1)遺跡の漆製品と
漆工関連遺物

中澤寛将 (青森県世界文化遺産登録推進室)

発表②

X線マイクロCTスキャナーと三次元画像解析による縄文時代の漆工技術の復元
~分析テクノロジーの発達は考古学分野へどこまで貢献できるか~

片岡太郎 (弘前大学人文社会科学部)

発表③

縄文時代におけるベンガラ生産

児玉大成 (青森市教育委員会)

主催：青森県考古学会

共催：一般社団法人小牧野遺跡保存活用協議会

協力：青森市教育委員会事務局文化財課

(お問合せ)

縄文の学び舎・小牧野館

〒030-0152 青森市大字野沢字沢部108番地3

☎017-757-8665 <http://komakinosite.jp>